

【宗麟館開館記念】 第14回 大分銀行 経営説明会

大分銀行の平成 26 年度決算と経営戦略

平成 27 年 7 月 2 日 (木)





経営理念 体系図

概 要

平成27年3月31日現在

<理念>

「経営理念」

地域社会の繁栄に貢献するため
銀行業務を通じ最善をつくる

<宣言>

「ブランドスローガン」
感動を、シェアしたい。

<行動指針>

「Credo～私たちの約束～」

「地域とお客さまへの約束」

- ・地域への貢献
- ・お客さまへの感謝
- ・卓越したおもてなし
- ・快適な店づくり
- ・身だしなみと行動

「自分自身と仲間への約束」

- ・誇りと責任
- ・仲間への感謝
- ・自己研鑽
- ・チャレンジ
- ・心豊かな毎日

本 店 : 大分市府内町3丁目4番1号

創 立 : 明治26年2月1日

資 本 金 : 195億98百万円

従業員数 : 1,699名 (出向者および嘱託等を除く)

店 舗 数 : 102ヶ店 (うち大分県内 : 91ヶ店)
(代理店4ヶ店を含む、別途東京事務所・香港駐在員事務所あり)

預金等残高 : 2兆6,881億円

貸出金残高 : 1兆7,858億円

外部格付 : A+ (日本格付研究所)



平成27年6月24日現在

取締役

(代表取締役) 取締役頭取 : 姫野 昌治
(代表取締役) 取締役副頭取 : 三浦 洋一 (昇任)
(代表取締役) 専務取締役 : 清水 進英 (昇任)
(代表取締役) 専務取締役 : 後藤 富一郎 (昇任)
常務取締役 : 兒玉 雅紀 (昇任)
常務取締役 : 菊口 邦弘 (新任)
取締役 : 田中 賢児 (新任)
取締役 (社外) : 下田 憲雄
取締役 (社外) : 桑野 和泉

監査役

常勤監査役 : 広瀬 亨
常勤監査役 : 岩田 伸彦
監査役 (社外) : 小島 庸匡
監査役 (社外) : 薬師寺 十郎

執行役員

常務執行役員 : 田中 秀幸 (昇任)
執行役員 : 木許 禎
執行役員 : 武島 正幸
執行役員 : 岡松 伸彦 (新任)
執行役員 : 阿知波 孝典 (新任)
執行役員 : 高橋 靖英 (新任)
執行役員 : 相良 雅幸 (新任)





I. 平成26年度決算

1. 【連結】損益概況	5
2. 【単体】損益概況	6
3. 当期純利益とROE	7
4. 与信費用	8
5. 金融再生法開示債権	9
6. 有価証券ポートフォリオ	10
7. 株主還元	11
8. 平成27年度業績予想	12

II. 営業の実績

1. 預金等	14
2. 貸出金	15
3. 大分県内シェア	16



III. 当行の経営戦略

1. 「中期経営計画2014」	18
2. 地域と一体となった成長・発展	19
3. 地域の現状	20
4. CSVの実現	21
5. お客さまとの持続的なリレーションの構築	22
6. 地域密着型金融の実践	23
7. 貸出ポートフォリオの再構築	24
8. お客さまの課題解決への取り組み	25
9. 人材の確保	26
10. 営業チャネルの更なる充実	27
11. 地方創生への取り組み	
(1) 大分県が持つ可能性	28
(2) 大分県の豊かな観光資源	29
(3) 観光業の活性化	30
(4) 市町村との包括的な連携協力協定	31
(5) 中心市街地の活性化	32
(6) 大分銀行 宗麟館＝大分銀行のチャレンジ	33
(7) 大分銀行 宗麟館の特徴	34
(8) 地方創生プロジェクトチームの新設	35
(9) 立命館アジア太平洋大学との連携	36
12. 地域の皆さまと共に	
(1) 更なる地域活性化に向けた取り組み	37
(2) 文化活動への取り組み	38
(3) スポーツ活動への取り組み	40
(4) 地域行事への参画	41
13. 大分ご当地マイメロディポスター	42



I . 平成 26 年度決算



1. 【連結】損益概況

- ・ 資金利益および役務取引等利益の増加により、連結粗利益は前年度実績を上回る 4 2 5 億円となりました。
- ・ 連結当期純利益は貸倒引当金戻入益および株式等関係損益の増加により、前年対比 + 1 3 億円の 9 6 億円となりました。

(単位:億円)

	平成 2 5 年度	平成 2 6 年度	増 減
連結経常収益	590	618	28
連結粗利益	424	425	1
資金利益	335	344	9
役務取引等利益	62	68	6
その他業務利益	27	13	▲ 14
営業経費	324	322	▲ 2
貸倒償却引当費用	0	0	0
個別貸倒引当金繰入額	—	—	—
一般貸倒引当金繰入額	—	—	—
貸倒引当金戻入益	34	41	7
株式等関係損益	5	12	7
その他	10	8	▲ 2
経常利益	148	164	16
特別損益	▲ 5	▲ 4	1
税金等調整前当期純利益	143	160	17
当期純利益	83	96	13

2. 【単体】損益概況



- ・資金利益と役務取引等利益の増加によるコア業務粗利益の増加と経費圧縮により、コア業務純益は前年対比+16億円の87億円となりました。貸倒引当金戻入益の計上もあり、経常利益は過去最高益となる149億円に、当期純利益は前年対比+19億円の89億円となりました。

(単位:億円)

	平成25年度	平成26年度	増 減
経常収益	497	519	22
コア業務粗利益	382	394	12
業務粗利益	395	396	1
資金利益	329	339	10
役務取引等利益	52	58	6
その他業務利益	13	▲ 1	▲ 14
(うち国債等債券損益)	13	3	▲ 10
経費	310	306	▲ 4
業務純益 (一般貸倒繰入前)	85	90	5
コア業務純益	71	87	16
一般貸倒引当金繰入額①	—	—	—
業務純益	85	90	5
臨時収支	50	59	9
不良債権処理費用②	0	0	0
貸倒引当金戻入益③	36	40	4
株式等関係損益	4	12	8
経常利益	135	149	14
特別損益	▲ 13	▲ 4	9
信用コスト (①+②-③)	▲ 36	▲ 41	▲ 5
税引前当期純利益	122	145	23
当期純利益	70	89	19

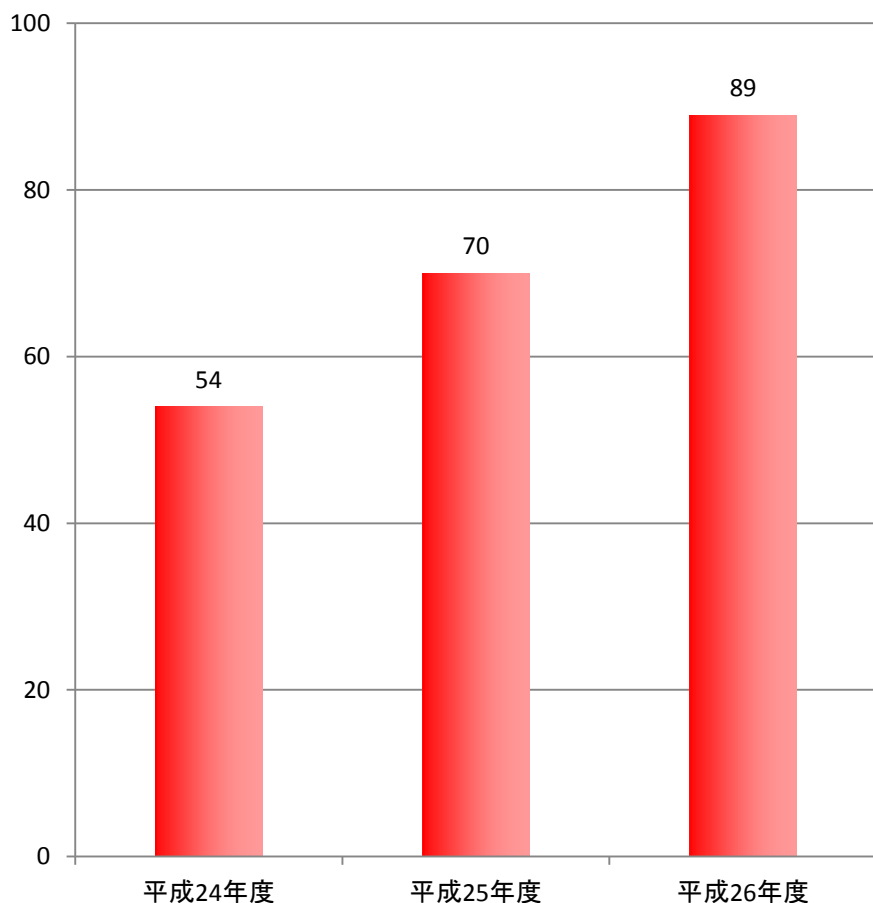
3. 当期純利益とROE



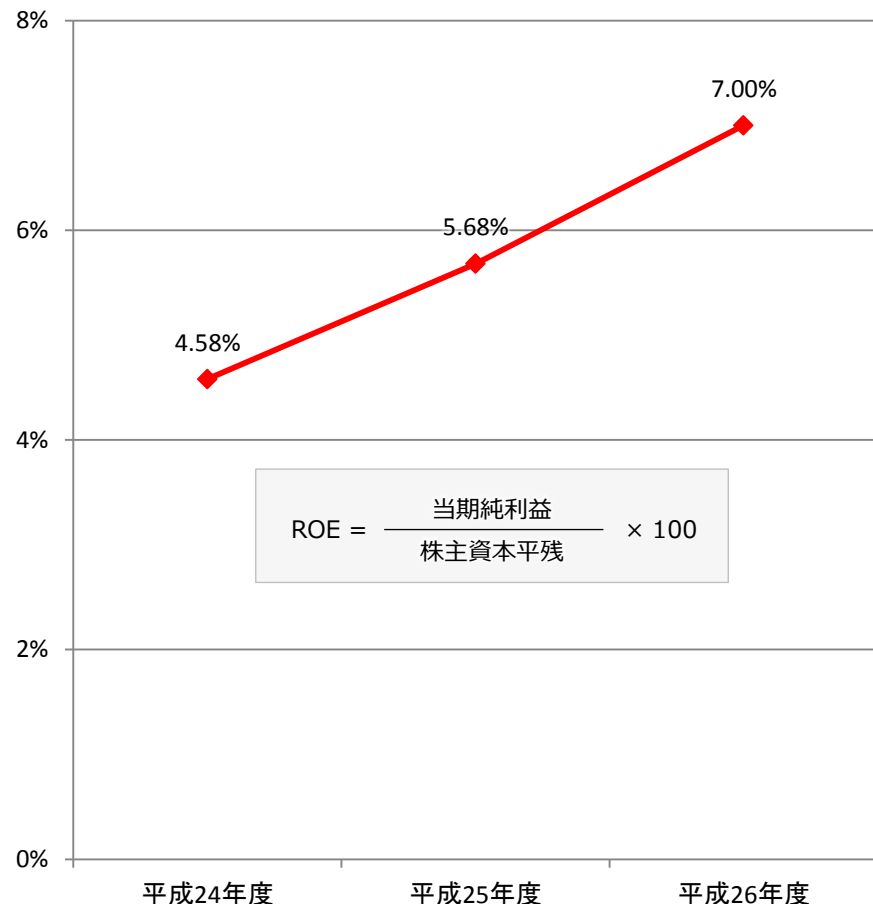
- ・当期純利益は、平成24年度以降の3年間で54億円、70億円、89億円と堅調に推移しています。
- ・収益力の強化に伴い、ROE（分母：株主資本平残）は前期対比+1.32ポイント上昇し、7.00%となりました。

当期純利益の推移

(単位:億円)



ROEの推移

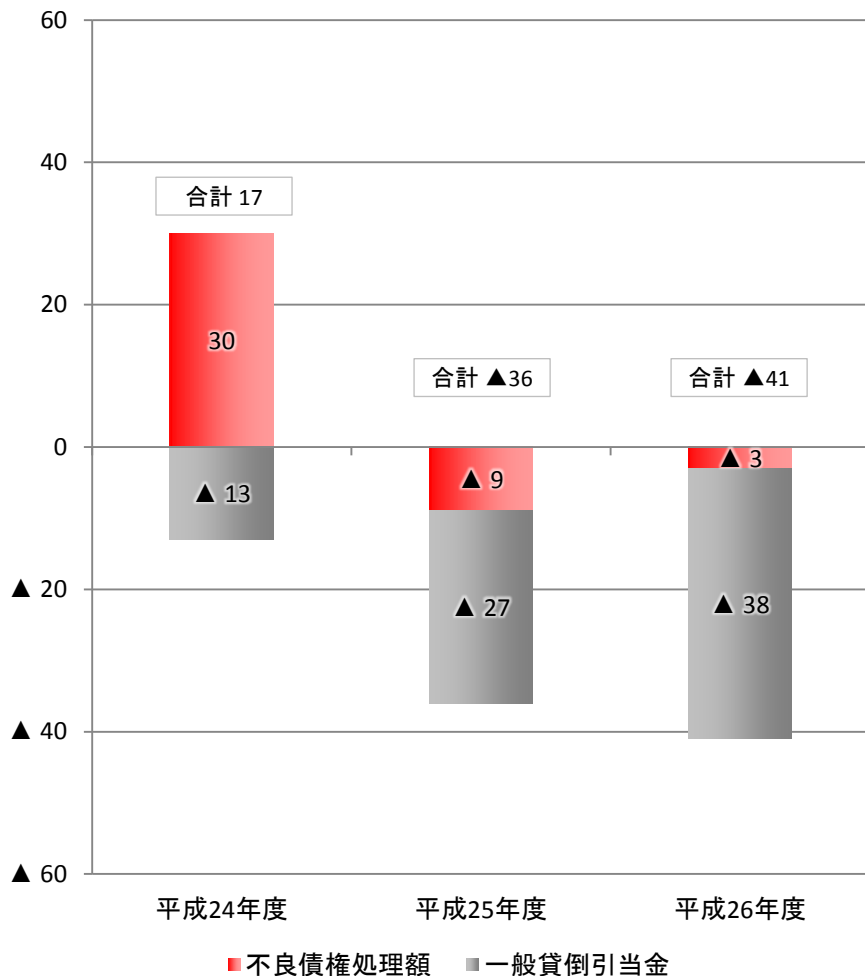


4. 与信費用

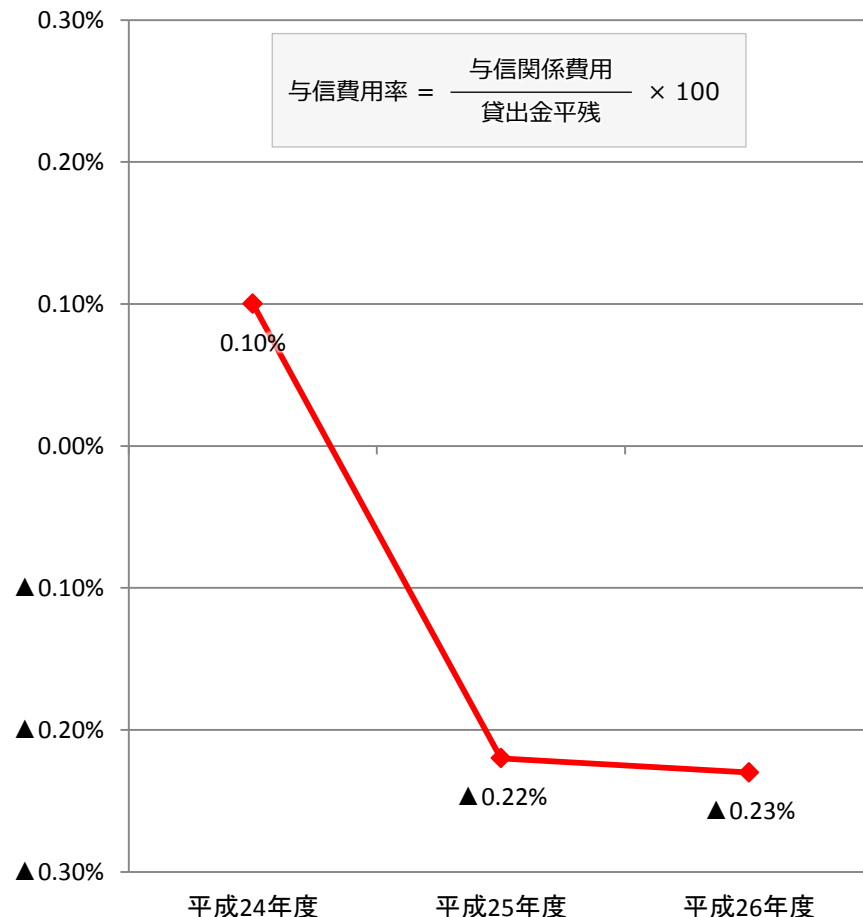
- 平成26年度は不良債権処理額、一般貸倒引当金繰入額共にマイナスとなり、貸倒引当金戻入益40億円を計上したことから、与信費用率についても▲0.23%となりました。

与信費用の推移

(単位:億円)



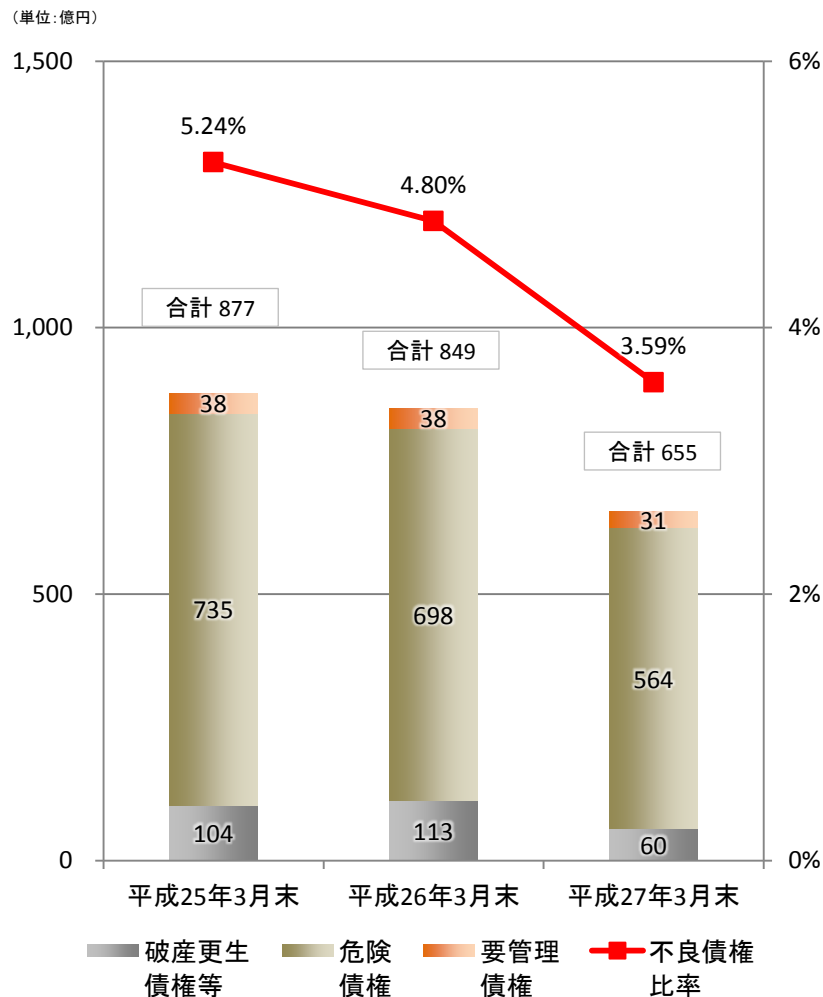
与信費用率の推移



5. 金融再生法開示債権

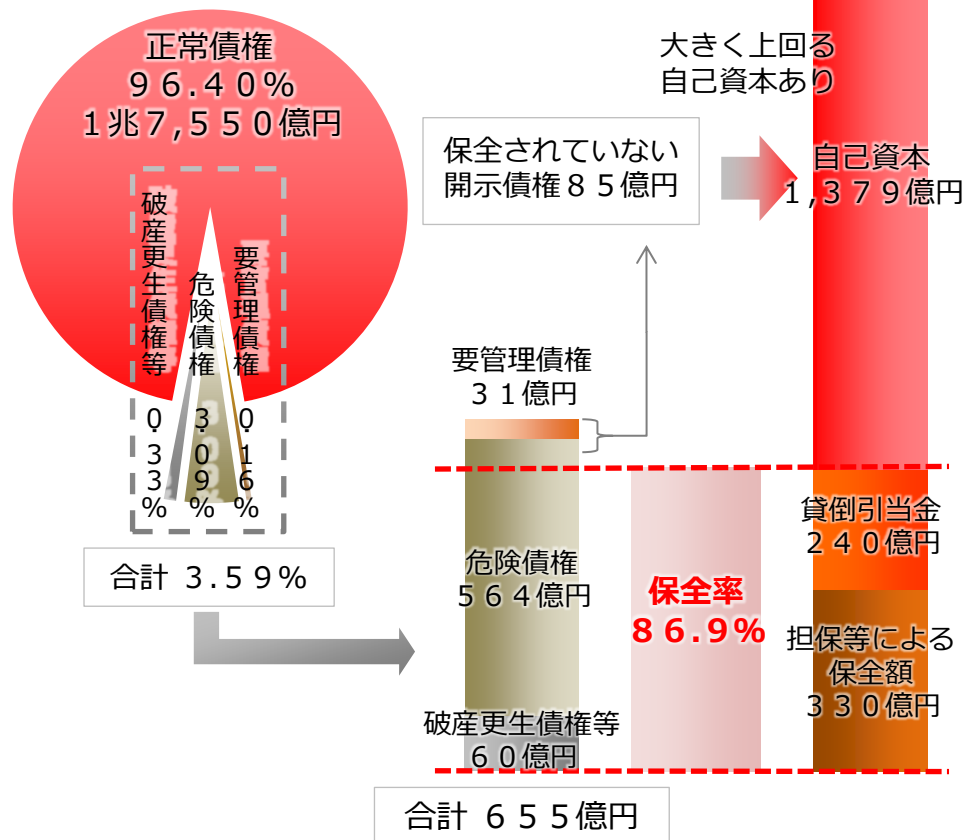
- ・売上増加や経営改善等、お客さまの本業を支援する活動に全行一丸となって取組んだ結果、不良債権比率は直近3期で着実に減少していますが、引き続き開示債権の増加を恐れることなく、地域のお客さまをしっかりと応援させていただきます。
- ・なお、開示債権額655億円のうち、貸倒引当金および担保等による保全率は86.9%と高い水準でカバーしています。

金融再生法開示債権・不良債権比率の推移



金融再生法開示債権 保全状況

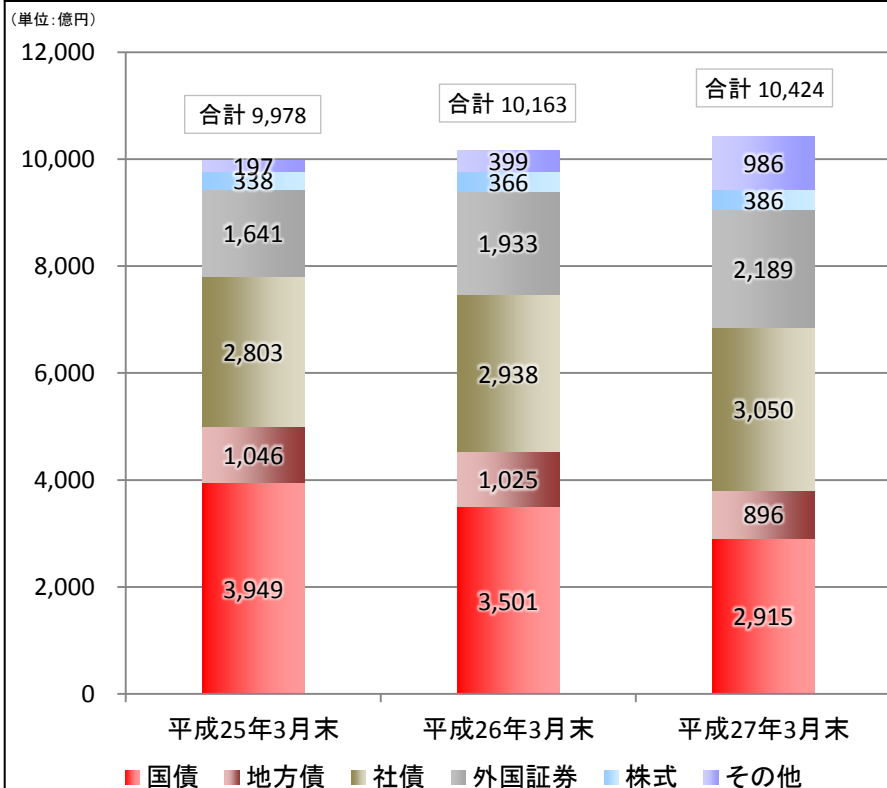
貸出金等合計 1兆8,205億円
(平成27年3月末時点)



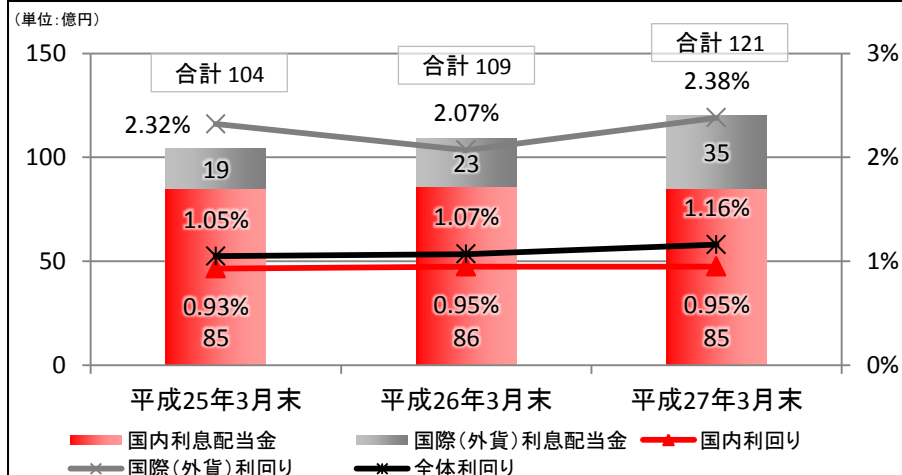
6. 有価証券ポートフォリオ

- ・有価証券は国内債券から、外国債券・投資信託等へのリバランスを実施しています。
- ・有価証券利息配当金は、国際（外貨）の増加により前年対比+ 1 2 億円の1 2 1 億円となりました。
- ・有価証券評価損益は、株式およびその他（外債・投信等）の拡大により前年対比+ 2 4 9 億円の5 8 1 億円となりました。

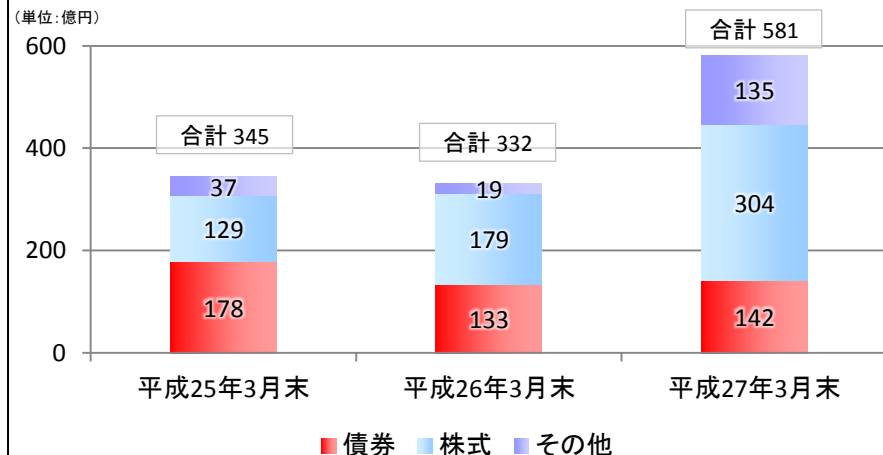
有価証券残高推移



有価証券利息配当金と利回り推移



有価証券評価損益推移



円貨債券修正デュレーションの推移

	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月
修正デュレーション	3.93	3.96	3.81

7. 株主還元

- ・平成26年度は株主の皆さまにしっかりと利益を還元するため、期末配当を1円増配し年間7円と致しました。
- ・平成26年12月に実施した総額約30億円の自己株式取得と併せた株主還元率は45.6%となりました。

配当額の推移

		平成24年度	平成25年度	平成26年度
1株あたり 配当額	中間	3円	3円	3円
	年間	7円(※)	6円	7円

(※) 平成24年度の年間7円のうち1円は創立120周年記念配当。

自己株式の取得

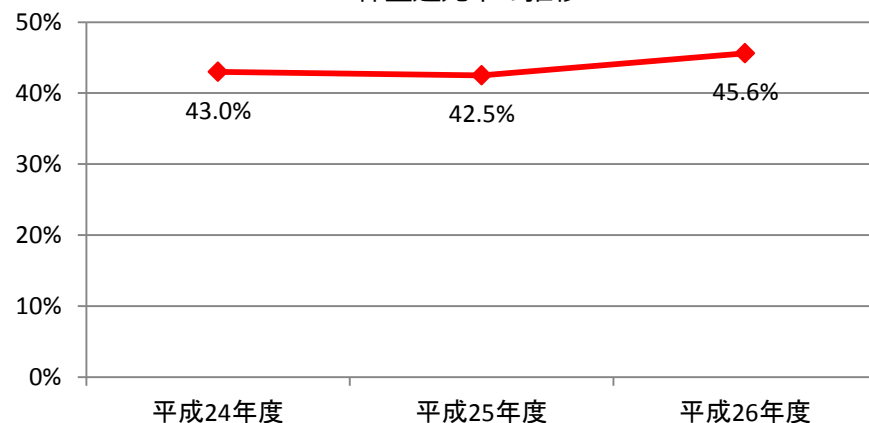
取得した株式の種類
普通株式
取得した株式の総数
6,479千株
株式の取得価格の総額
2,999百万円
取得日
平成26年12月3日
取得方法
市場買付

株主への利益配分の状況

(単位:百万円)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
年間配当額	1,164	983	1,103
自己株式取得額	1,182	1,998	2,999
株主還元額	2,346	2,981	4,102
当期純利益	5,453	7,012	8,990
配当性向	21.2%	14.0%	12.3%
株主還元率	43.0%	42.5%	45.6%

「株主還元率の推移」



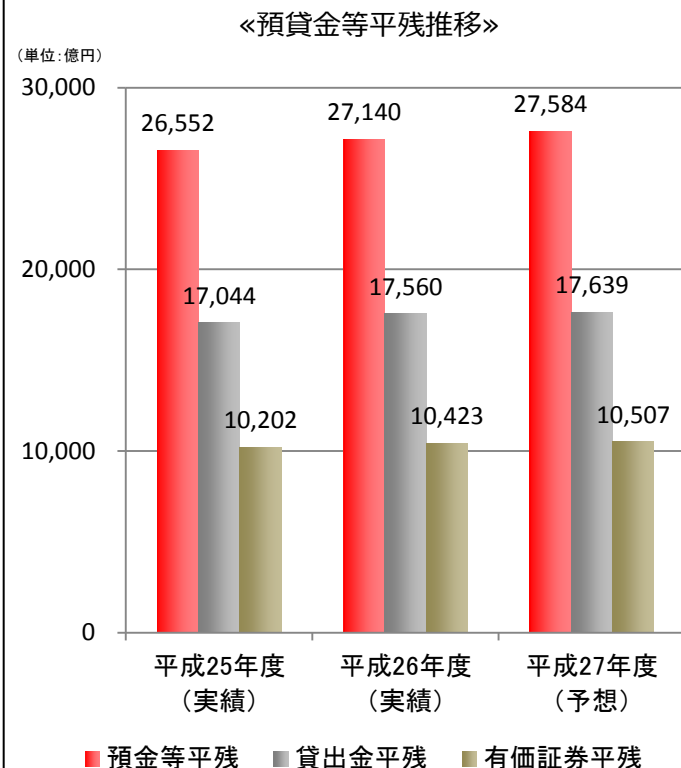
8. 平成27年度業績予想

- ・市場金利の低下が継続する中、業務純益は前年度水準を維持しますが、2期連続で計上した貸倒引当金戻入益は見込めないことから、当期純利益は平成26年度実績を14億円下回る予想です。
- ・引き続き「地域密着化戦略」を全行一丸となって着実に実践してまいります。

(単位:億円)

	平成26年度実績	平成27年度予想	増 減
経常収益	519	485	▲ 34
コア業務粗利益	394	392	▲ 2
業務粗利益	396	394	▲ 2
資金利益	339	337	▲ 2
役務取引等利益	58	63	▲ 5
その他業務利益	▲ 1	▲ 6	▲ 5
(うち国債等債券損益)	3	2	▲ 1
経費	306	304	▲ 2
コア業務純益	87	88	増 益 1
一般貸倒引当金繰入額①	—	▲ 1	▲ 1
業務純益	90	90	キープ 0
臨時収支	59	27	▲ 32
不良債権処理費用②	0	1	1
貸倒引当金戻入益③	40	—	▲ 40
株式等関係損益	12	25	13
経常利益	149	118	▲ 31
特別損益	▲ 4	▲ 1	3
信用コスト(①+②-③)	▲ 41	0	41
税引前当期純利益	145	117	▲ 28
当期純利益	89	75	▲ 14

業績予想の前提条件



貸出金、有価証券はポートフォリオリバランスにより
収益性を向上させていく。



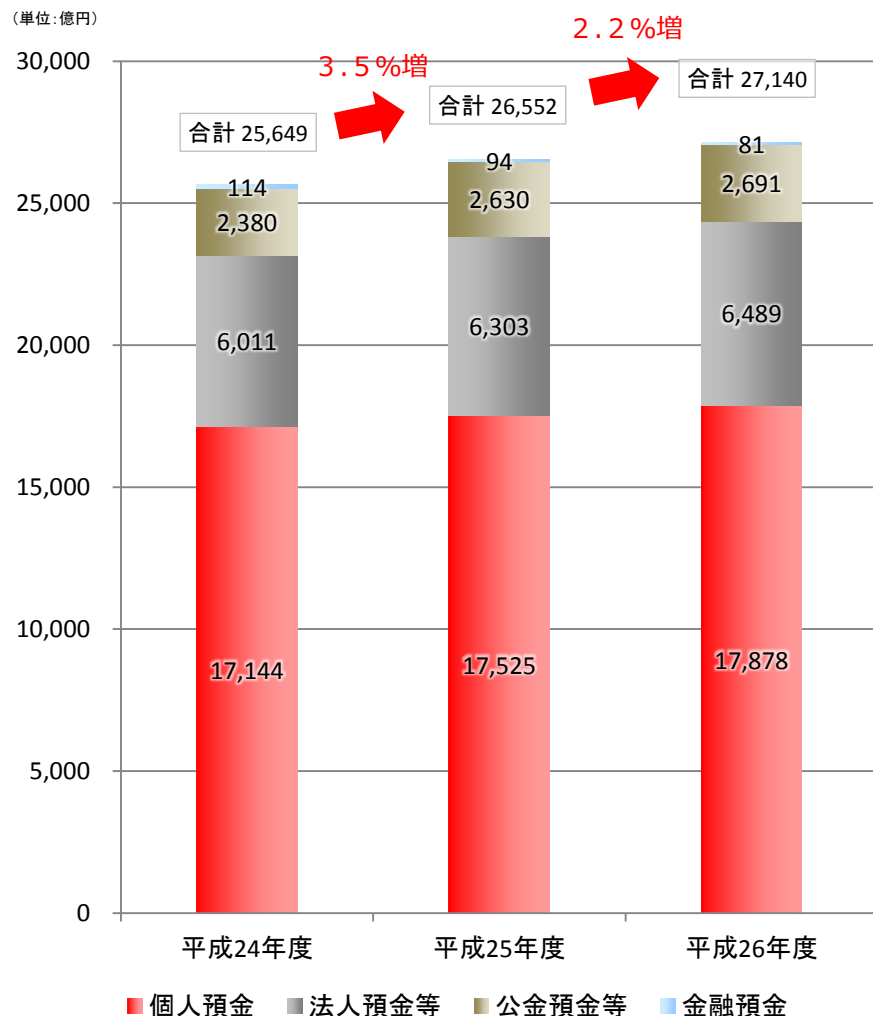
Ⅱ. 営業の実績



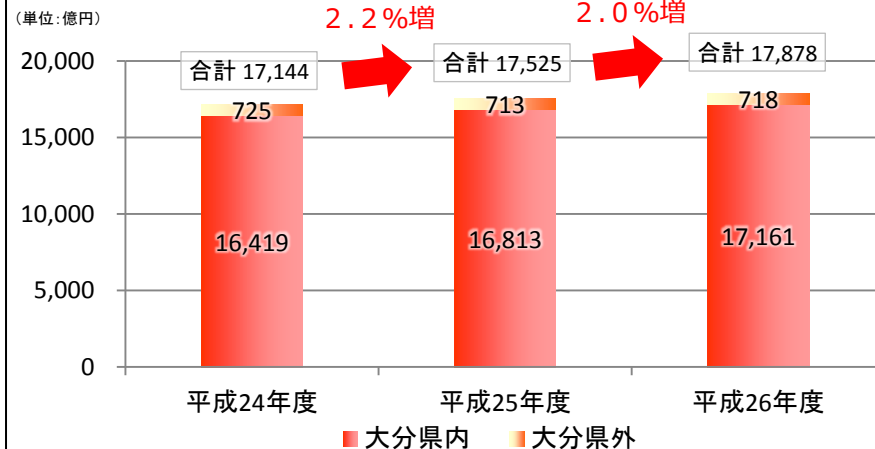
1. 預金等

- ・預金等の通期平均残高は順調に増加しており、平成26年度の年率は+2.2%となりました。
- ・個人預金、法人預金のいずれも、主たる営業地域である大分県内を中心に、残高は順調に増加しています。

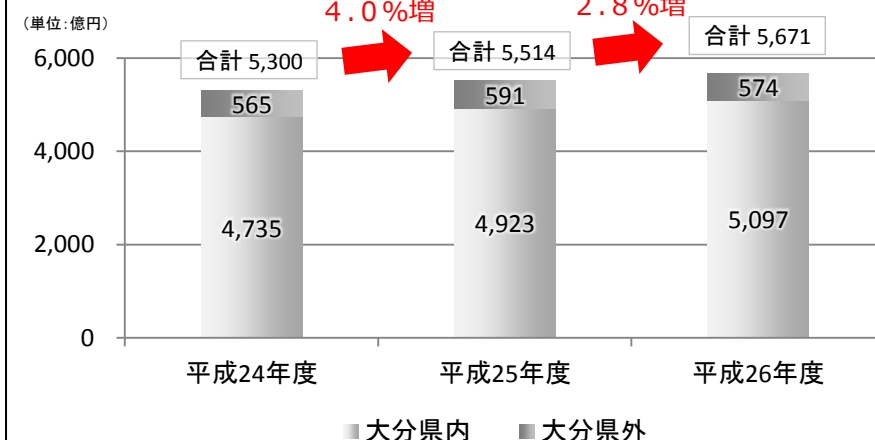
預金等「通期平均残高」推移



個人預金「通期平均残高」推移



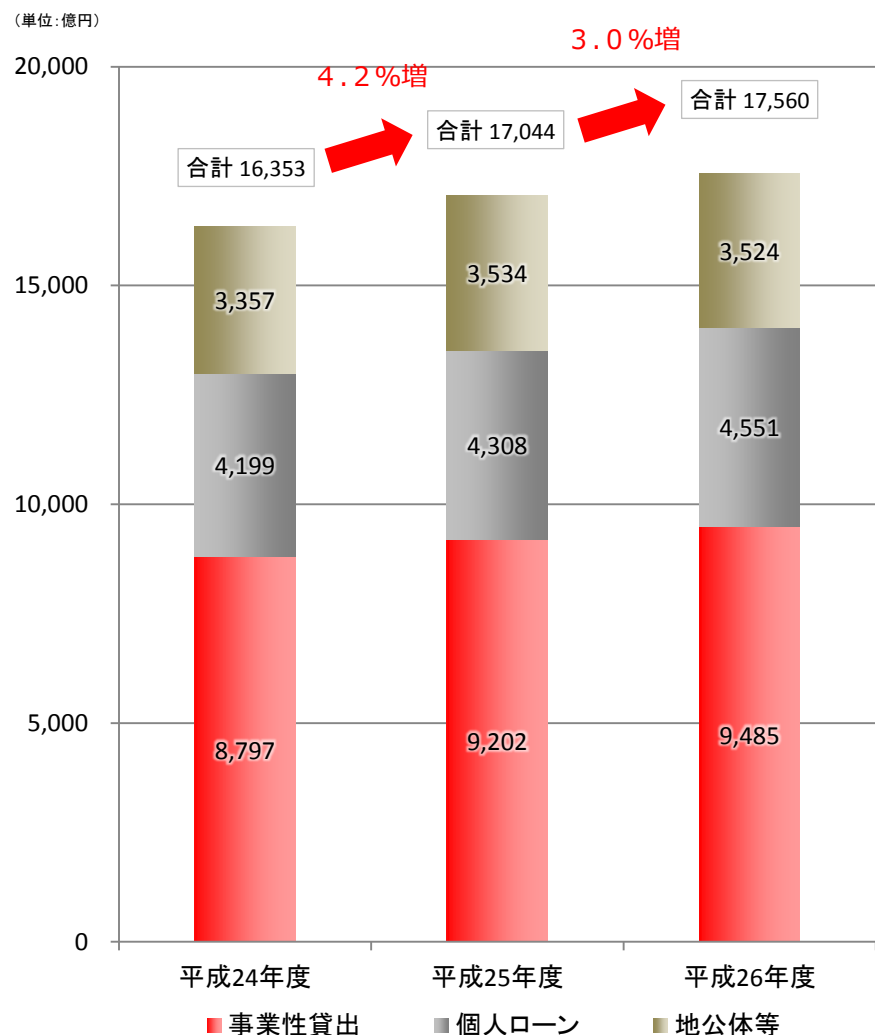
法人預金「通期平均残高」推移



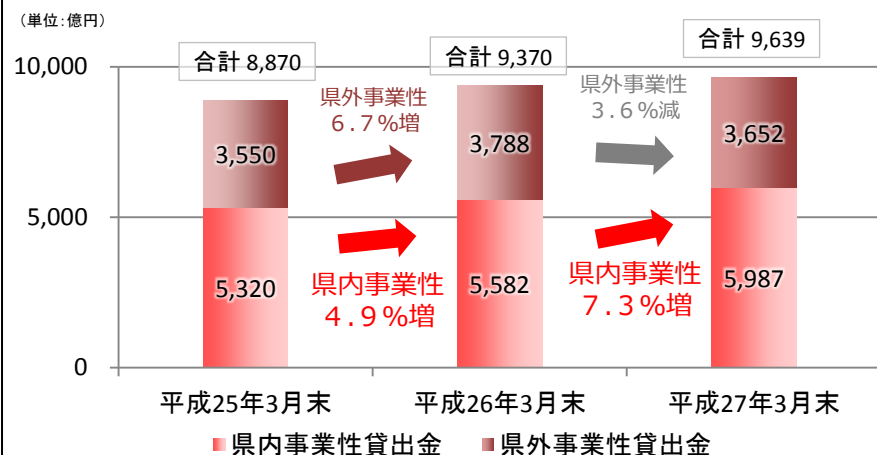
2. 貸出金

- ・全行一丸となって「地域密着化戦略」に取り組んだ結果、総貸出金の通期平均残高の年率は+3.0%となりました。
- ・特に、地域のお客さまが当行を積極的に活用して下さった結果、県内事業性貸出金と個人ローンが大きく増加しています。

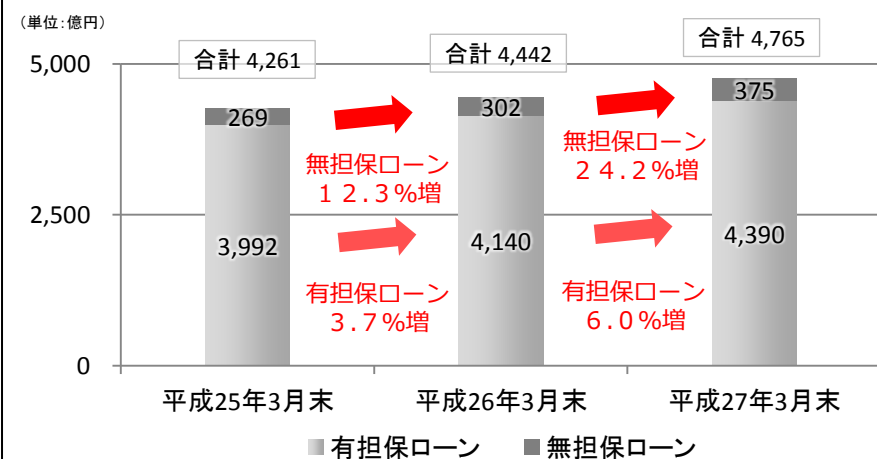
貸出金「通期平均残高」推移



事業性貸出金「期末残高」推移



個人ローン「期末残高」推移

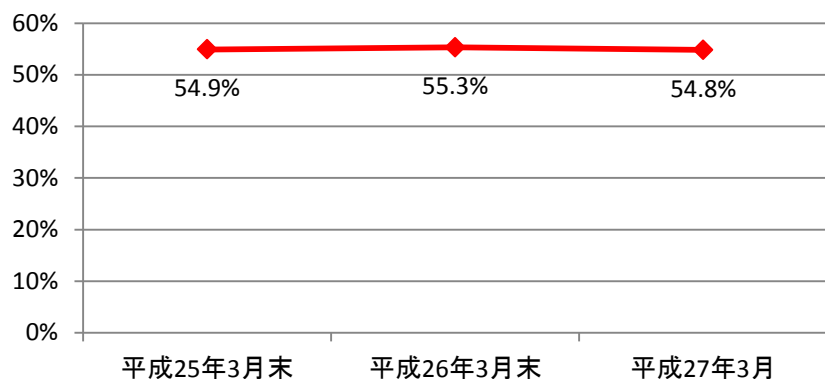


3. 大分県内シェア

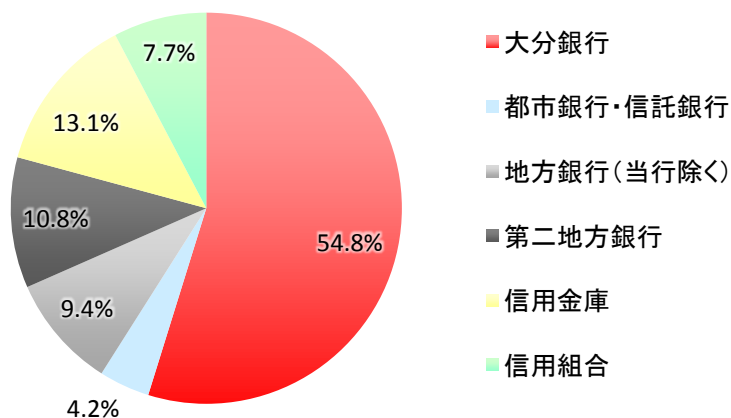
- ・預金等は、個人・法人共に増加しましたが、公金預金の減少により、県内シェアは前期対比▲0.5ポイント低下しました。
- ・地域密着型金融の実践による事業性貸出金の増加等により、貸出金の県内シェアは前期対比+0.5ポイント上昇しました。

預 金 等

「預金等 大分県内シェア推移」

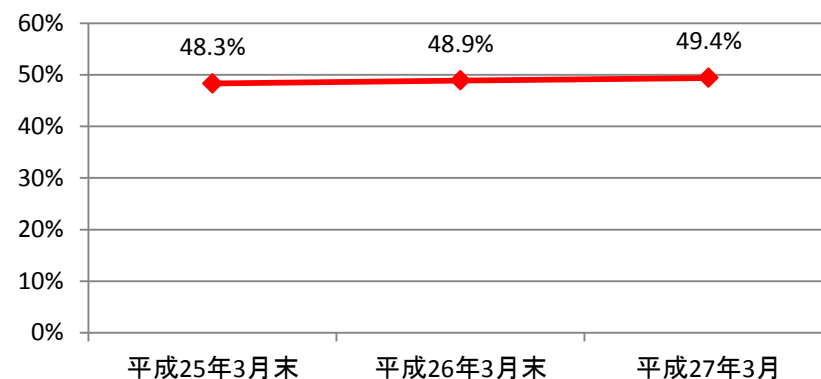


「預金等 平成27年3月末時点 大分県内シェア」

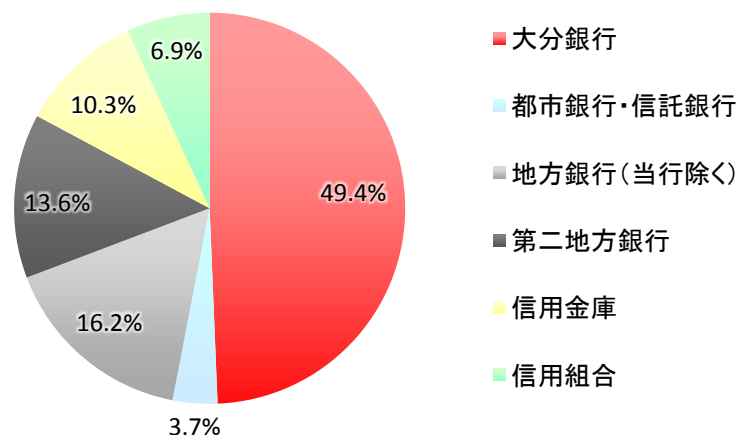


貸 出 金

「貸出金 大分県内シェア推移」



「貸出金 平成27年3月末時点 大分県内シェア」





Ⅲ. 当行の経営戦略



1. 「中期経営計画2014」

- ・「中期経営計画2014」（H26.4～H28.3：2年間）においては、PDCAの「Do」（実践・行動）の比重を大幅に高め、全行一丸となって引き続き「地域密着化戦略」を推し進めてまいります。

「中期経営計画2014」の体系図

【基本テーマ】
（スローガン）

SPEED & CHALLENGE!

【ビジョン】
（目指す姿）

地域の豊かな未来を創るために、
あふれる情熱を持って行動する銀行

【基本方針】
（共通理念）

収益力の強化

【大前提】

持続的利益

事業の継続

コンプライアンス

基本方針に基づく「重要課題」と「取組項目」

競争に打ち勝つ営業の実践

- CEの実現によるお客さまとの絆の強化
- お客さまとの持続的な取引関係の構築に向けた営業推進の実践

営業に注力できる事務態勢の構築

- 業務の抜本的な見直し
- IT戦略の高度化

挑戦、行動する人財の育成

- 付加価値を生み出す人財の育成
- 情熱を持ち収益を追求する組織の構築

成長に向けた経営基盤の強化

- リスクマネジメントの高度化
- 地域活性化への主体的な取組み

2. 地域と一体となった成長・発展

- ・大分銀行はグループ一丸となって、自らの成長、発展と一体の関係にある地域の面的な活性化に取り組んでまいります。
- ・大分銀行の全役職員は、自らのふるさとである大分の活性化に対して、あふれる情熱を持って取り組んでまいります。

地域と一体となった成長、発展

地域のお客さま

地域社会全体

お客さまの本業を
直接支援

地域活性化への
直接関与



地域をみつめ 未来をみつめ

大分銀行

大分銀行グループの成長、発展は、地域と一体の関係にあります。

大分銀行グループは地域のお客さま、そして地域社会全体の成長、発展に向けて、積極的に直接支援、直接関与を実践してまいります。

大分銀行の「Credo」（信条、行動指針）

Credo

～私たちの約束～



「地域とお客さまへの約束」

【地域への貢献】

私たちは、地域を愛し、
地域の発展のために行動します。

大分銀行の役職員は、一時的に大分に赴任しているわけではなく、自らはもちろんのこと、家族も大分で生活している「大分県民」です。

大分銀行の役職員は、自らのふるさとである大分の活性化に対してあふれる情熱を持っています。

大分銀行は全役職員が一丸となって、地域の活性化に組み、地域社会の繁栄に貢献し続けてまいります。

3. 地域の現状

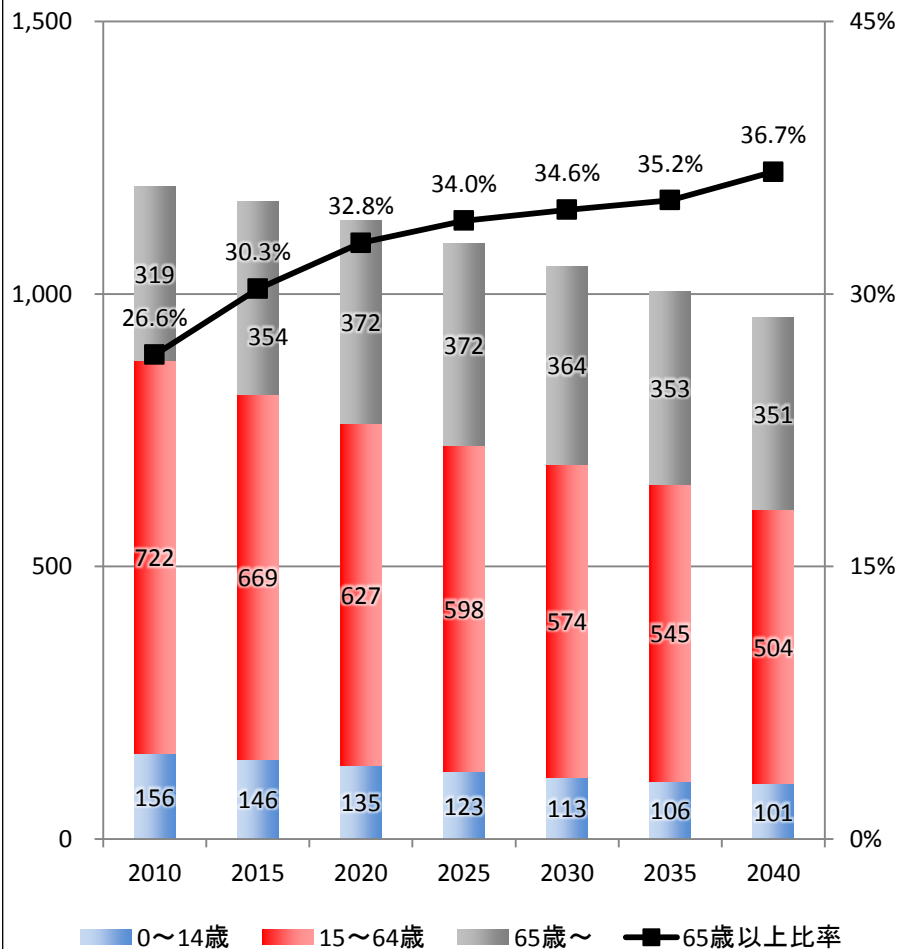
- ・当行の成長、発展と一体の関係にある地域社会は、現在、人口減少・高齢化の進展や経済のグローバル化に伴う大企業の生産拠点の海外移転等、これまで経験したことのない数多くの社会的課題を抱えています。

ご参考

人口の減少と高齢者比率の上昇

【大分県の将来推計人口】

(単位:千人) (国立社会保障・人口問題研究所(2013))

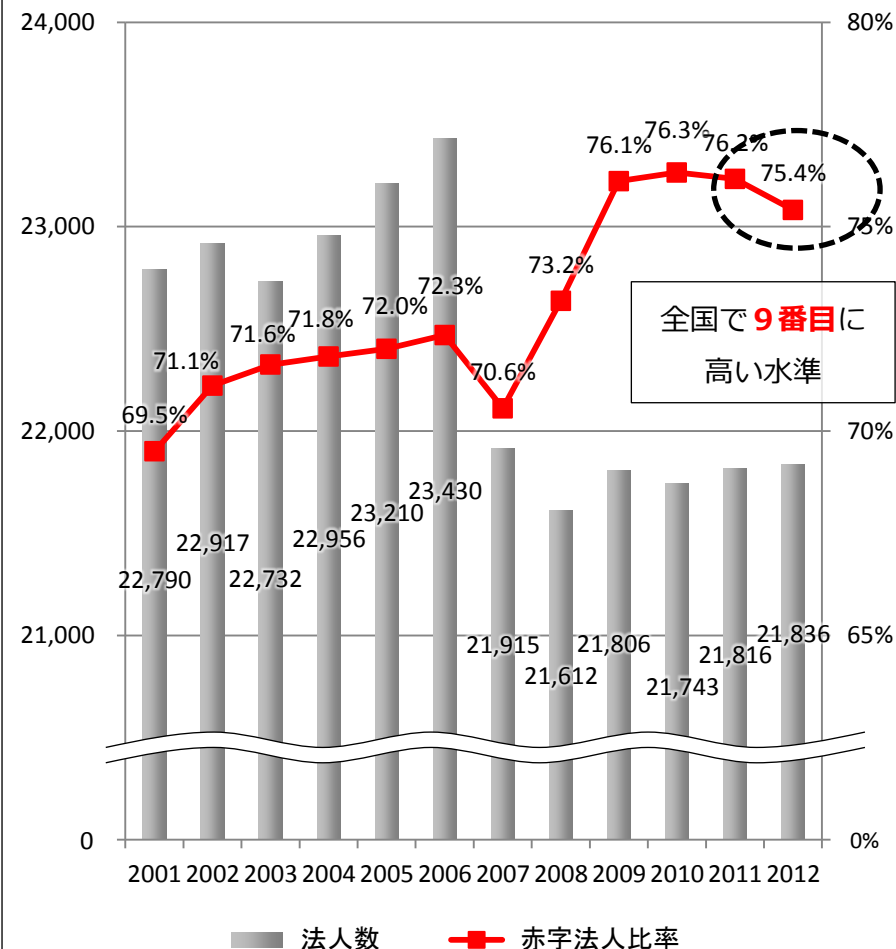


ご参考

法人数の伸び悩み

【大分県の法人数】

(単位:一社) (国税庁 統計資料(2014))



4. C S Vの実現

- ・当行では、環境保全活動といったC S Rへの取組みに加え、地域に根差した産業の育成等、地域が抱える社会的な課題の解決に貢献するため、C S V（Creating Shared Value：共有価値の創造）の実現に向けた取組みに注力しています。

「C S V（Creating Shared Value：共有価値の創造）」の実現に向けた主体的かつ積極的な取組み



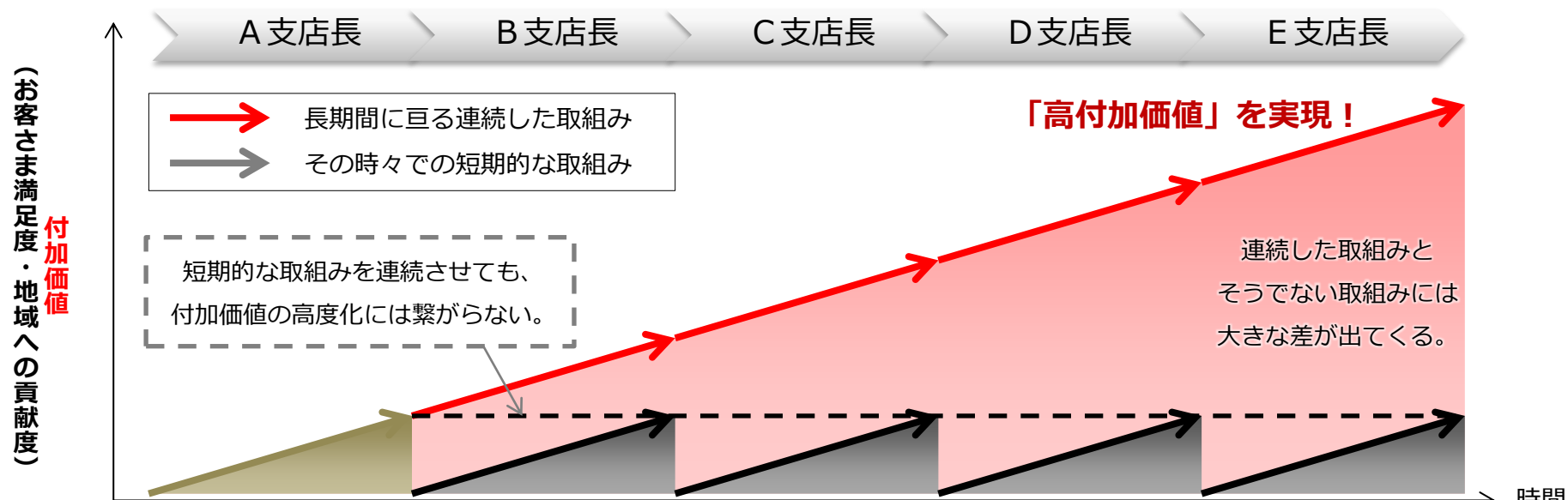
「C S V」実現への取組み



OITA BANK

- ・経営理念「地域社会の繁栄に貢献するため銀行業務を通じ最善をつくる」をより高いレベルで実現し、当行だけではなく、お客さまの事業のサステナビリティを確保するため、「C S V」の実現に対し当行グループ一丸となって主体的かつ積極的な取組みを実践します。

【長期的かつ連続した取組みの実践】



5. お客様との持続的なリレーションの構築

- ・長期的な視点を持ち、営業店の取組みに連続性を持たせ、「三方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし）」の実現に取組むと共に、お客様との間に持続的なリレーションを構築させていただきます。

一貫通貫した取組み

A 支店長

B 支店長

C 支店長

D 支店長

E 支店長

《お客様の業績》

お客様との持続的なリレーションを構築させて頂くため、
お客様の業績が良い時も苦しい時も、
変わらぬ姿勢を持って、「とことんサポート」させて頂く。

《お客様の業歴》

お客様の短期的な業績の変動にとらわれず、ブレない軸やスタンスを持ち、
地域やお客様にとって真に役立つ活動を地道に且つ継続的に推進します。

6. 地域密着型金融の実践

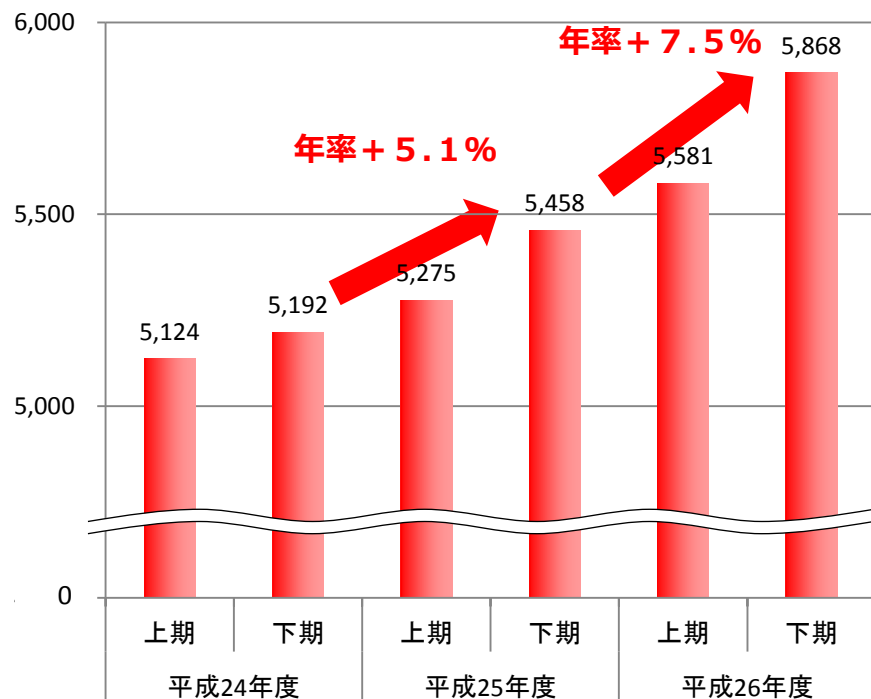
- ・平成26年度下期の県内事業性貸出金 期中平均残高の年率は+7.5%と高い伸びを実現しました。当行は引き続き営業地域の急激な拡大は志向せず、「地域に根差したサービスを実践し、高い付加価値を生み出す」活動に注力していきます。

県内事業性貸出の増強

お客さまの本業を支援する活動（売上増加、経営改善支援、業種転換支援等）を強化した結果、平成26年度下期の平残年率は+7.5%と高い伸びを実現することができました。

【県内事業性貸出金 期中平均残高実績】

(単位:億円)

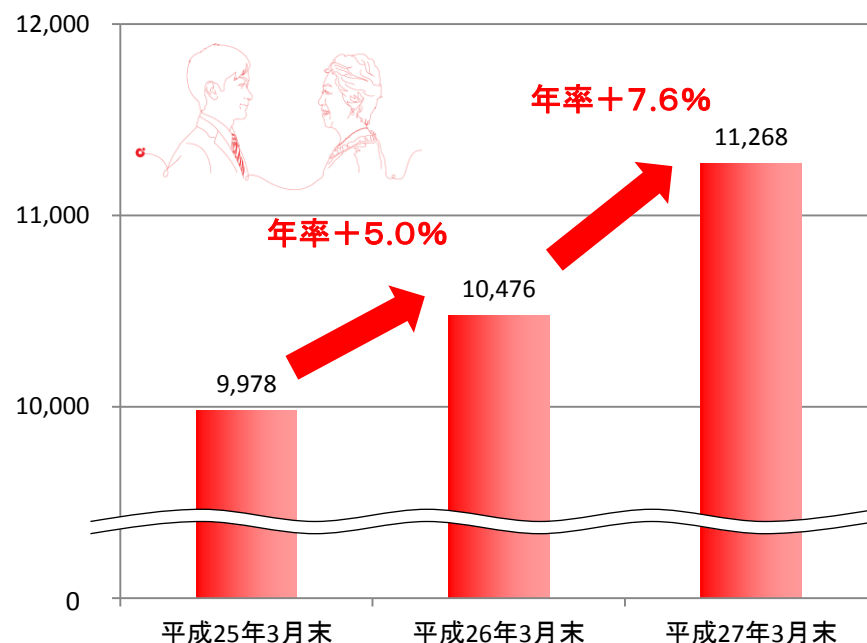


中小企業等貸出金の増強

地域の中小企業や個人のお客さまに円滑な資金供給を行うことは、地域金融機関の使命であると認識し、引き続き中小企業等向貸出金の増強に取り組んでまいります。

【中小企業等向貸出金残高実績】

(単位:億円)



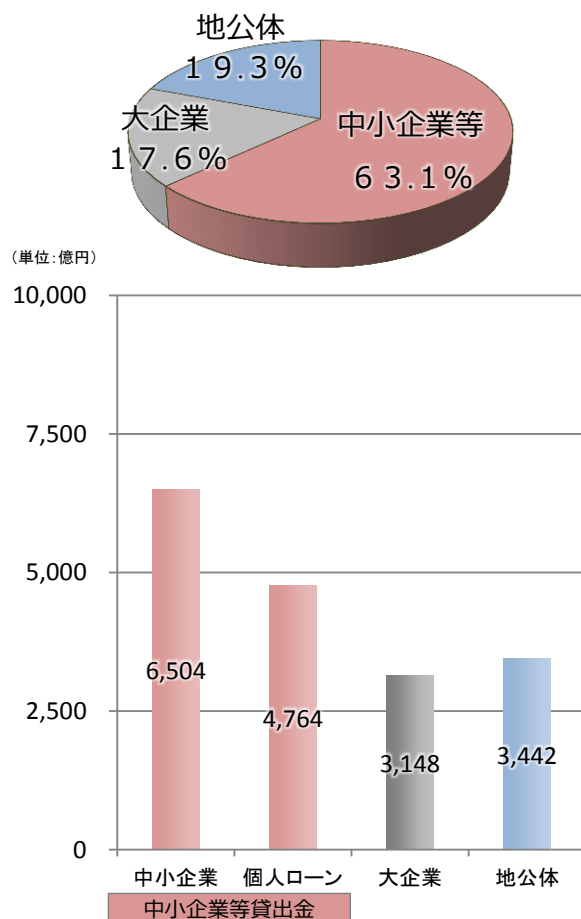
7. 貸出ポートフォリオの再構築

- ・地域の事業者さまや個人のお客さまへのサポートを強化し、お客さまとの持続的なリレーションを構築させて頂く中で、地域に密着した貸出ポートフォリオを構築してまいります。

地域密着型金融の実践により、地域の事業者さまや個人のお客さまへの貸出金を増強する。

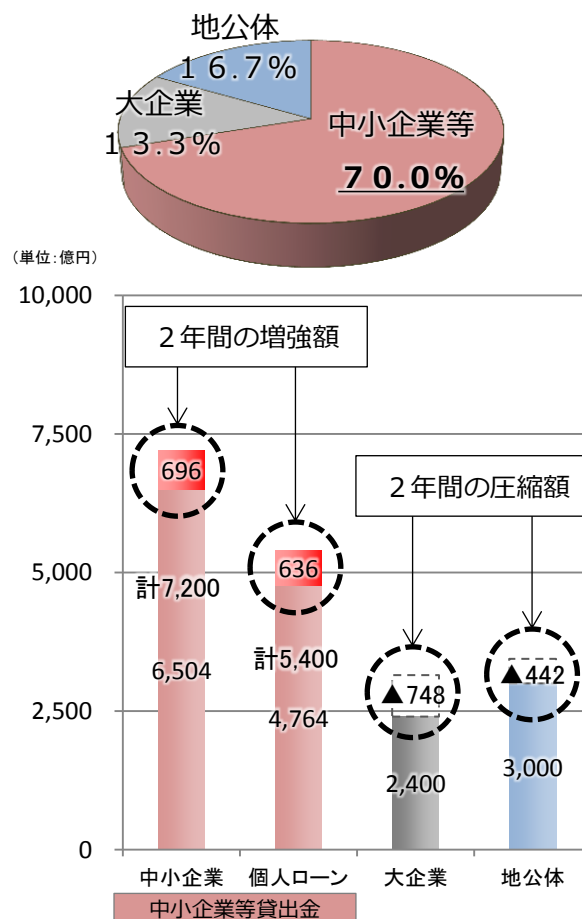
《現在》【平成27年3月末時点】

総貸出金残高：1兆7,858億円



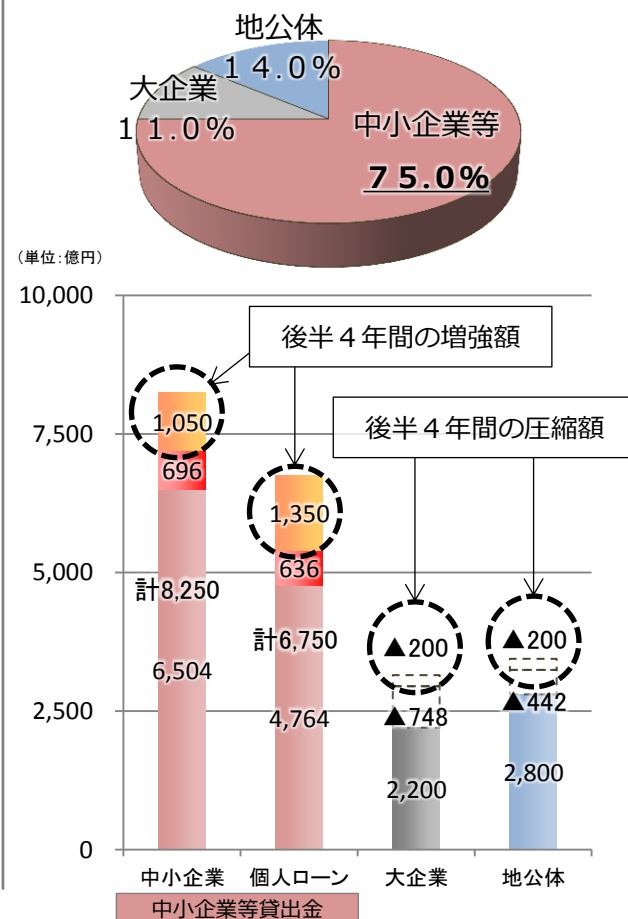
《2年後》【平成29年3月末時点】

総貸出金残高：1兆8,000億円



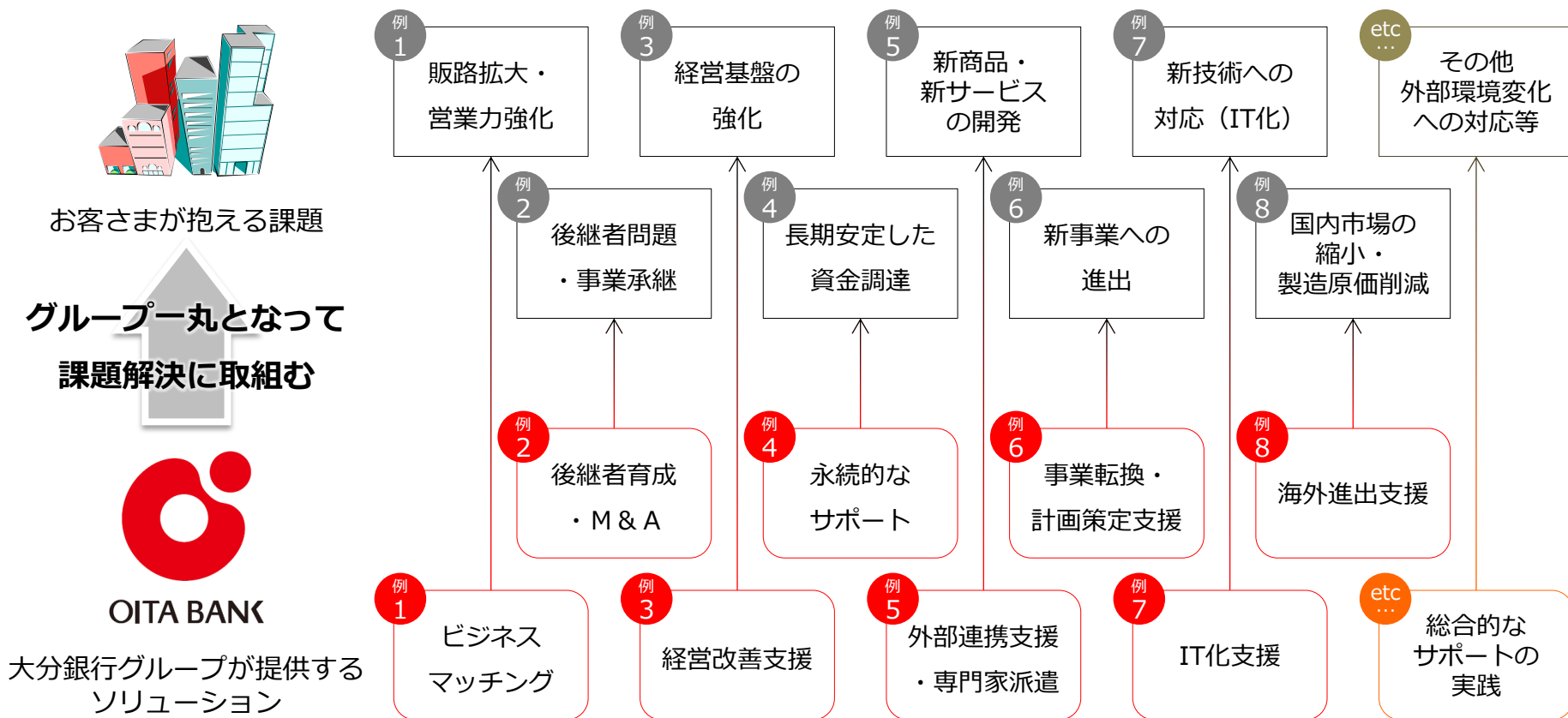
《6年後》【平成33年3月末時点】

総貸出金残高：2兆円



8. お客様の課題解決への取り組み

・僅かな金利差がもたらすお客様の業績への影響は非常に小さなものです。大分銀行は僅かな金利差の何十倍、何百倍ものメリットをお客様に提供させて頂くため、お客様の事業全体をトータルでしっかりとサポートさせて頂きます。



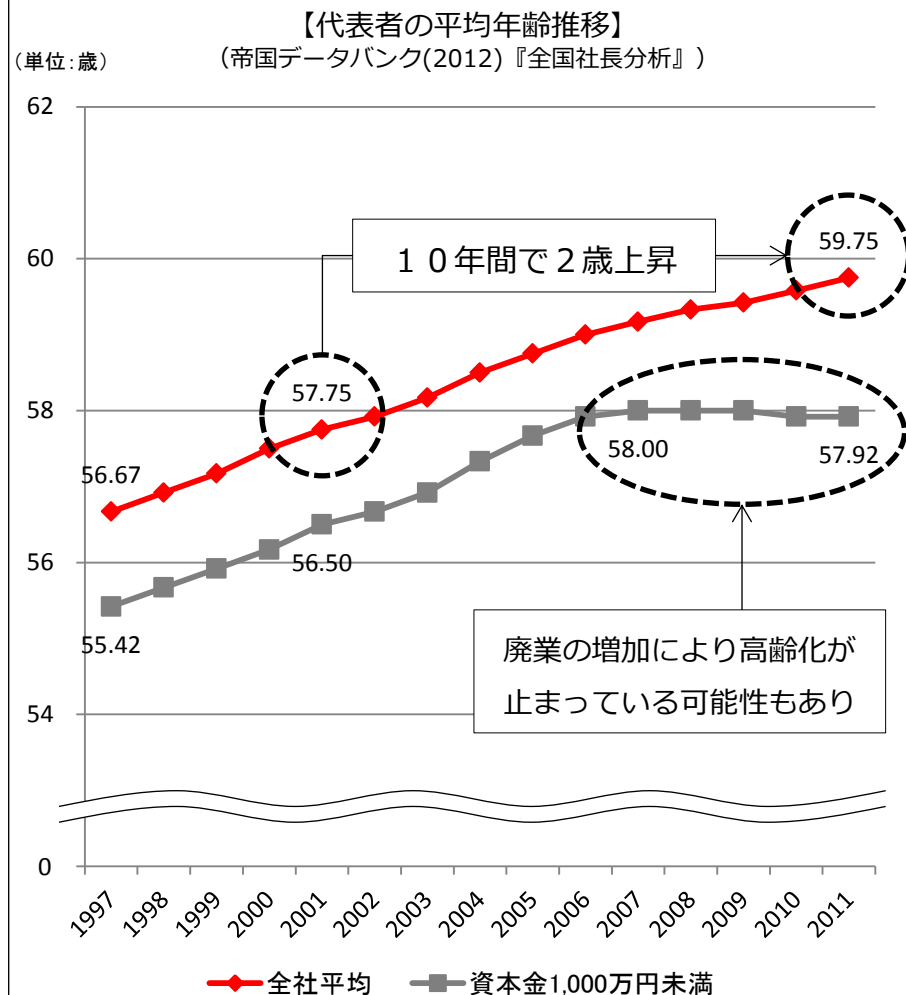
120年以上にわたり大分と共に歩んできた銀行として、結果責任をとる覚悟を持ち、
グループ丸となって、お客様へのサポートを継続して実践します。

9. 人材の確保

・経営者の高齢化が進み、特に中小企業のお客さまにとって人材の確保・育成が極めて重要な経営課題となっている中、大分銀行では現役・OBを含め100名以上の行員（元行員を含む）が、地域の事業者さまに出向、再就職させて頂いております。

ご参考

経営者の高齢化



ご参考

中小企業を取組むべき課題

【経営基盤の強化に向けて注力する分野】
（日本政策金融公庫(2011)『2012年の中小企業の景況見通し』）

順位	注力する分野	回答比率 (複数回答)
1	営業力・販売力の強化	74.4
2	人材の確保・育成	36.2
3	販売価格引上げ、コストダウン	34.9
4	財務体質の強化（借入金返済等）	30.6
5	技術・研究開発の強化	25.0
6	新規事業の立上げ等	18.6
7	自社ブランドの育成・強化	16.1
8	海外事業展開	11.2
9	供給能力の拡充（設備増強等）	10.8
10	既存事業の絞り込み	7.8

10. 営業チャネルの更なる充実

- インターネット支店の開設やA T Mサービスの拡充を順次実施すると共に、スマートフォン向オリジナルアプリケーションの開発やS N Sを通じた有益かつタイムリーな情報発信を通じて、お客さまの利便性の更なる向上に取り組んでいます。

多様なチャネルの強化

- 平成26年8月、新規口座開設手続きもネット上で完結できる等、インターネット取引に特化した「ネット赤レンガ支店」を開設。



- 平成27年4月、提携A T Mサービスを拡充し、平日・土日祝日24時間取引を可能としました。



オリジナルアプリケーションやS N Sの積極的な活用

スマートフォン向けのオリジナルアプリケーションの利便性を更に高めるため、随時バージョンアップを実施しています。

平成26年7月には、お客さまにお得なキャンペーンや便利な新商品に関する情報を提供するため、「LINE」の公式アカウントを開設。

現在「LINE」の他、「Facebook」、「Twitter」、「YouTube」と様々なS N Sを活用して、お客さまにとって有益な情報をタイムリーに配信しています。



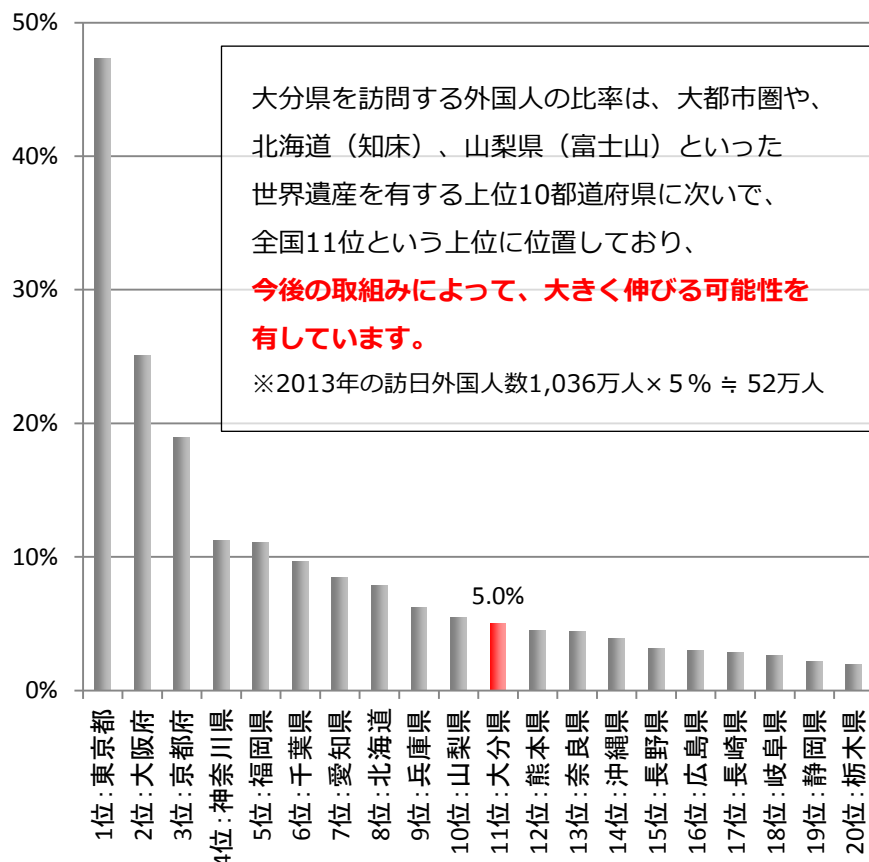
11. 地方創生への取り組み (1) 大分県が持つ可能性

- ・訪日外国人訪問率において、大分県は全国11位に位置している他、外国人が旅行先を日本とした理由の上位4項目（景観、歴史・文化、日本食、温泉）がいずれも充実しており、大分の観光業は今後大きく伸びる可能性を有しています。

ご参考

大分県が持つ可能性

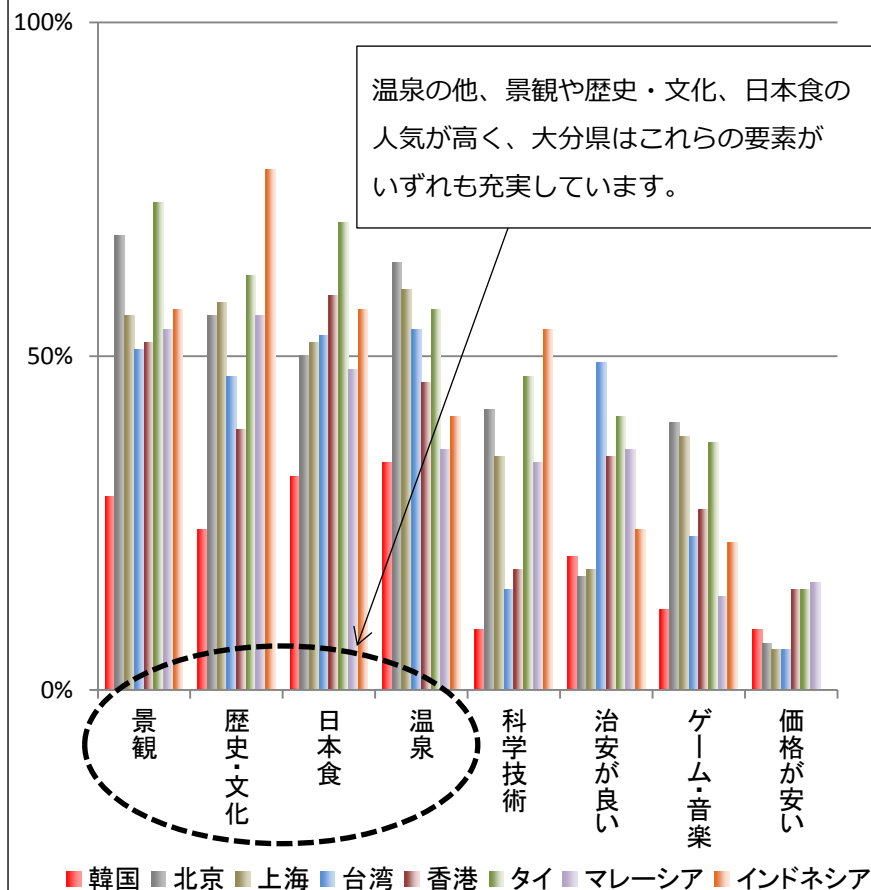
【訪日外国人訪問率上位20都道府県（2013年実績）】
（観光庁(2014)『訪日外国人消費動向調査』）



ご参考

大分県が持つシーズ

【日本へ複数回旅行した外国人が日本を旅行先にした理由】
（日本政策投資銀行(2012)『アジア8地域・訪日外国人旅行者の意向調査』）



11. 地方創生への取り組み (2) 大分県の豊かな観光資源



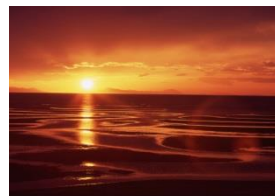
- ・大分県内には数多くの国宝・重要文化財が存在している他、地形が変化に富んでいることから多様な景勝地も有しています。
- ・温泉だけではなく小藩分立の歴史に彩られた多数の城下町や豊かな食等、大分県内には豊富な観光資源が存在しています。



耶馬溪
(新日本三景の一つ)



田染荘
(世界農業遺産)



真玉海岸
(日本の夕陽百選)



熊野磨崖仏
(県内磨崖仏数日本一)



富貴寺
(国宝:九州最古の木造建築)



鶴見岳
(霧氷や夜景が有名)



宇佐神宮
(国宝:全国八幡宮総本山)



院内町の石橋
(県内石橋数日本一)



九重連山
(阿蘇くじゅう国立公園)



久住高原
(標高千Mに広がる高原)



軸丸北の棚田
(日本 棚田百選)



原尻の滝
(東洋のナイアガラ)



鶴御埼灯台
(九州の最東端)



臼杵石仏
(国宝:石仏群中59体が国宝)



別府温泉
(源泉総数、湧出量日本一)



由布院の朝霧
(憧れ温泉地8年連続1位)



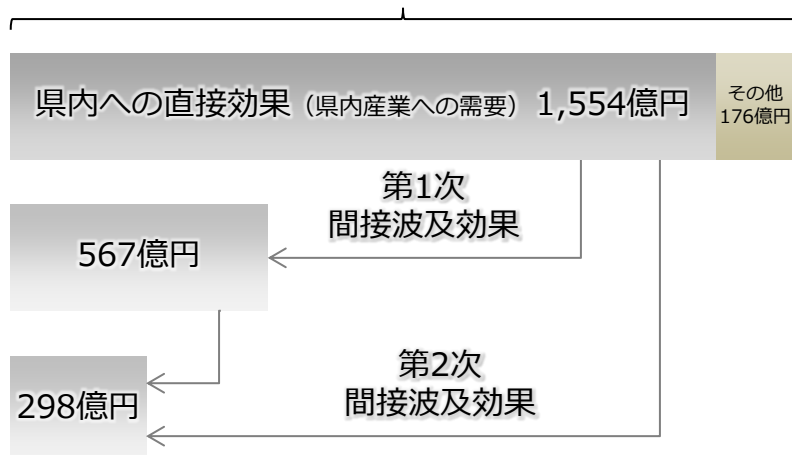
11. 地方創生への取り組み (3) 観光業の活性化

- 「地域そのもの」が付加価値を生み出すと共に、1.56倍の経済波及効果があり、かつ中小企業でも他社との差別化が可能な事業である「観光業」の活性化に対し、自らの経営資源を直接投入する等、主体的な取り組みを実践しています。

ご参考 大分県内における観光業の経済波及効果

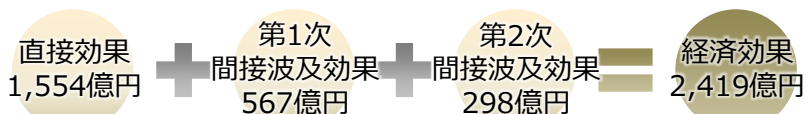
【旅行者・観光客の消費がもたらす県内産業への経済波及効果】
(大分県・大分大学(2012))

旅行者・観光客の県内消費額1,730億円 (平成22年)



第1次間接波及効果... 直接効果で発生した県内の財・サービスへの需要に必要な原材料の生産が生産を呼び、県内の各産業の生産が誘発される効果

第2次間接波及効果... 直接効果、第1次間接波及効果で発生した雇用者所得が消費にあてられることで、更に生産が誘発される効果



1.56倍

観光業の活性化に向けた大分銀行の取り組み



大分銀行の店舗網、情報網を活用し、
魅力的な観光資源を発掘する。



社外役員の知見等を活用しながら、
外部との連携も推し進める。



平成26年4月 専門部署設置

市町村連携の橋渡しや
魅力的な観光ルートの発信へ取り組む。

地域への経済波及効果が大きく、中小企業でも差別化が可能な産業である観光業の活性化に主体的に取り組むことによって、地域に根差した産業の育成や交流人口の増加に貢献していきます。

11. 地方創生への取り組み (4) 市町村との包括的な連携協力協定

- ・大分銀行の成長と一体の関係にある地域社会の発展に貢献するため、大分県内の市町村と連携した取組みを実践しています。
- ・東九州自動車道開通効果を高めるため、隣県の地方銀行と連携してお互いの県を相互に紹介する取組みを実施しています。

市町村との包括的な連携協力協定

地域活性化に貢献するため、以下の事項を目的として、大分県内の4市と包括的な連携協力協定を締結しています。

- ・人的・知的資源の活用と交流を図り、地域振興のプランニングを行う。
- ・社会インフラや産業・観光振興の分野を中心に相互に有意義と認められる諸事業を行う。



※竹田市との調印式の様子



《臼杵市》

H25.11.7締結



《佐伯市》

H26.1.8締結



《竹田市》

H26.2.21締結



《津久見市》

H26.10.7締結



感動を、シェアしたい。
大分銀行

東九州自動車道開通の経済波及効果をもつための取組み

平成27年3月、東九州自動車道の大分県内全線が開通しました。当行では大分県、宮崎県の発展の架け橋となる東九州自動車道の開通を記念し、両県の交流の更なる強化を通じた地域の活性化に寄与するため、宮崎銀行と共同で「東九州ハイウェイツーリズムキャンペーン」を実施しています。



※お互いの本店でお互いの県を紹介



11. 地方創生への取り組み (5) 中心市街地の活性化

- ・平成27年4月、大分市中心市街地に新大分駅ビルや大分県立美術館、そして「大分銀行 宗麟館」が相次いでオープンしました。「大分銀行 宗麟館」や「大分銀行 赤レンガ館」を活用し、中心市街地の賑わい創出へも主体的に関与していきます。

【県都大分市中心市街地の活性化】

平成27年4月、「大分銀行 宗麟館」の他、「新大分駅ビル（ＪＲおおいたシティ）」や「大分県立美術館（OPAM）」等、中心市街地活性化の起爆剤となる施設が相次いでオープンしました。



11. 地方創生への取り組み (6) 大分銀行 宗麟館 = 大分銀行のチャレンジ



- ・「大分銀行 宗麟館」では従来型の金融サービスに加え、お客さまの本業を支援する活動や観光情報の発信も行います。
- ・「大分銀行 宗麟館」は地域活性化に対して主体的な取り組みを行う「大分銀行のチャレンジ」を象徴する存在です。

「大分銀行 宗麟館」 = 「銀行としては他に例を見ない存在」



「大分銀行 宗麟館」ではお客さまの事業支援や大分県の観光情報の発信等を行い、大分県経済を発展させるハブとなることを展望しています。カフェやW i F i、キッズスペース等を備えており、地域の賑わい創出にも貢献していきます。

【宗麟館フロアガイド】

2 F 多目的ホール



2 F キッズスペース



2 F オープンデッキ



1 F ロビー



5 F 大会議室



4 F 大会議室



2 F カフェ



1 F カフェ



「大分銀行 宗麟館」 = 「大分銀行のチャレンジ」

地域活性化
に向けて

「大分銀行 宗麟館」 = 「大分銀行のチャレンジ」



地域活性化に取り組むチャレンジの象徴



ご参考

宗麟館の詳細についてはSNS等にて情報発信中



11. 地方創生への取り組み (7) 大分銀行 宗麟館の特徴

- ・「大分銀行 宗麟館」は、ブランドスローガン「感動を、シェアしたい。」を実現するフラッグシップビルとして、法人・個人、全てのお客さまのご相談にお応えするワンストップチャネルの機能性を発揮し、地域活性化に貢献していきます。

【「大分銀行 宗麟館」の特徴】

特徴1 法人のお客さま、個人のお客さま、全てに総合金融サービスを提供します。

法人のお客さまには創業から事業承継まで総合的な金融サービスを提供。個人のお客さまにはライフステージに応じた多様なサービスを提供。

特徴2 お客さまの事業の発展に向けた、ビジネスの「出会いの場」を提供します。

ビジネスマッチングフェアやセミナーを開催し、ビジネスの「出会いの場」として、お客さまとお客さまとを繋ぐ架け橋の役割を果たします。

特徴3 観光情報の発信やアートに関する様々なイベントを開催します。

魅力的な観光スポット・観光ルートを紹介する他、2 Fのイベントスペースでは、文化、芸術、音楽に関する様々なイベントも随時開催します。

特徴4 ソーリン支店は平日19時まで営業、土曜・日曜・祝日も休まず営業します。

カフェやキッズスペースを完備しており、平日の仕事帰りや、週末に家族で来店頂き、資産運用やローン等に関する相談にも利用頂けます。

特徴5 銀行に用のない方も気軽に立ち寄ることのできる「憩いの場」を提供します。

銀行に用がない方でも自由に利用できるカフェを設置。2 Fのオープンデッキも営業時間中は開放。館内にはWi-Fi環境を整備しています。

特徴6 宗麟館の総合デザインは、新大分駅も手掛けた水戸岡鋭治氏が担当しました。

「大分銀行 宗麟館」の総合デザインは、JRの「ななつ星」や新「大分駅ビル」等を手掛けたデザイナー・水戸岡鋭治氏が担当しました。

その他 地域の更なる活性化に繋がる、多様なコラボレーション等を多数企画中です。

現在、外部機関との連携による様々な企画を検討しており、今後、地域の更なる活性化に資する魅力的なイベント等を随時開催していきます。



水戸岡 鋭治 氏
撮影：筒井義昭
(Yoshiaki Tsutsui)

11. 地方創生への取り組み (8) 地方創生プロジェクトチームの新設



- ・平成27年3月、地方創生への全行一丸となった取組みを強化、実践し、地域が抱える様々な課題の解決に貢献するため、全店の支店長を地方創生推進責任者とする「地方創生プロジェクトチーム」を新設しました。

地方創生プロジェクトチームの組織体系

- 
- 地方創生統括責任者
 - ・法人営業支援部長

- 地方創生担当部門
- ・法人営業支援部・営業戦略部
- ・融資部・個人営業支援部

- 地方創生担当部署
- ・法人営業支援部 地域支援室

- 地方創生連携部門
- ・株式会社大銀経済経営研究所
- ・大分ベンチャーキャピタル株式会社

- 地方創生推進責任者
- ・全店の営業店支店長

- 地方創生地公体責任者
- ・地方公共団体取引店支店長



今後の取組み

- ・地方自治体による「地方版総合戦略」の策定について、地方自治体からの要請等をふまえて、積極的に参画することで、課題解決に向けた取組みを実践します。
- ・地方自治体が策定した「地方版総合戦略」の施策推進において産官学労と適切に連携し、地域に根差した金融機関として、グループ一体となって地域社会・経済の活性化に貢献していきます。



11. 地方創生への取り組み (9) 立命館アジア太平洋大学との連携



- ・平成27年4月、立命館アジア太平洋大学(APU)が新設した「ムスリム研究センター」に特別会員として参画しました。
- ・教員や留学生を通じて各国とネットワークを構築し、お客さまの海外進出支援や観光ビジネスの活性化に貢献していきます。

【立命館アジア太平洋大学の概要】



所在地：大分県別府市

教員数：174名（2014/11/1時点）

学生数：5,796名（2014/11/1時点）

※教員、学生共に約半数が外国籍

《 特 色 》

学校法人立命館が2000年4月に設立した日本初の本格的な国際大学。開学以来131の国・地域から集まった国際学生が学んでいる。

日本語・英語の二言語教育システムを展開しており、高度な言語運用能力の獲得とともに、世界の優秀な若者への日本留学の可能性を切り開いている。

ムスリム研究センターの活用を通じた地域活性化への貢献

目的

ムスリム研究センター新設の目的

イスラム人口は世界で20億人と言われる中、地域とムスリム文化の互恵的な共生の在り方等を研究すると共に、ムスリムビジネスを通じた「地方創生」に資する活動モデルを構築する。

研究領域

ムスリム研究センターの研究領域

- ・地域におけるムスリム文化との共生のあり方。
- ・地域活性化や地域企業の更なる発展、地方創生にも資するようなモデルの構築。
- ・多様な文化的背景や専門分野の研究者および企業・団体・自治体と連携することによる、ユニークかつ実践的な研究活動の展開。
- ・「経営学・ファイナンス」、「観光学」、「文化・思想・社会学」、「国際関係・政治学」等の分野におけるイスラムに関する研究活動。



OITA BANK

ハラールビジネスへの対応はもちろんのこと、当該研究を通じて海外との強固なネットワークを構築し、大分県が持つ歴史・文化、自然、温泉、食といった多種多様な魅力を発信していくことによって、お客さまの海外進出支援や観光ビジネスの活性化にも貢献していきます。


 \ いやします。ひやします。/
おんせん県おおいた

【「おんせん県おおいた」情報発信への取組み】

＜AAPBS10周年記念総会への協賛と一部主催＞
アジア太平洋地域各国の有力ビジネス
スクールが一堂に会する総会を、大分市、
別府市にて平成26年11月19～21日に開催。

The map illustrates the extensive network of expressways in Kyushu, Japan. Major routes are color-coded: blue for the main Kyushu Expressway Network, red for the N10 route, and brown for the N1 route. Key interchanges and junctions are marked with numbers and names. The map shows the connectivity between major cities and the integration of the Kyushu network with the Honshu network via the N1 route.



12. 地域の皆さまと共に (2) 文化活動への取組み①

【アルゲリッチ音楽祭への協賛】

大分銀行は、世界的な天才ピアニスト マルタ・アルゲリッチ女史を総監督に迎えた「別府アルゲリッチ音楽祭」唯一の特別協賛企業であるほか、「別府アルゲリッチ音楽祭協賛ウェンズデイコンサート」の開催や会場のボランティア参加等を通じて当音楽祭を全面的に支援しています。



【各種芸術イベントへの協賛】

<N響 大分公演>

<ベップ・アート・マンス2014>

<混浴温泉世界>

<大分アジア彫刻展>



12. 地域の皆さまと共に (2) 文化活動への取り組み②



大分銀行本店ロビー展

美術時評集Ⅱ

平成6年〜平成22年

＜ロビー展の開催＞



＜将棋名人戦の誘致＞



名人戦

第七十一期 第四局 日対局

羽生善治三冠 森内俊之名人

平成25年 5月21日(木)・22日(金)

日対局の山荘 (大分県日対局)

主催/毎日新聞社、朝日新聞社、日本将棋連盟
協賛/大分県日対局、大分県日対局、大分県日対局

前夜祭 平成25年5月20日(水) 18:00~20:00
会場/大分県日対局 シルクホール
料金/17:00 前夜祭 17:00
入場料/一般 8,000円 中学生以下 3,000円
大分県日対局 TEL:0977-73-3111

第600回 大分銀行ウェンズデー記念コンサート

2011年 6月1日(木)

17:00 17:30

会場/大分県日対局 シルクホール

無料 (観覧券)

大分銀行

＜ウエズデイコンサートの開催＞



12. 地域の皆さまと共に (3) スポーツ活動への取り組み



＜ネーミングライツの取得＞



＜大分県内のプロスポーツチームへの支援＞



＜スペシャルサンクスデーの開催＞
(大分トリニータ公式試合の主催)



＜大分国際車いすマラソンへの協賛＞



＜各種スポーツ事業への協賛＞
(写真はバサジィ大分によるサイン会)



＜べつだいウォークの開催＞
(別府大分毎日マラソン大会開催同日)



【各種スポーツイベントの開催】

＜大分銀行 やまざくら杯
グラウンドゴルフ大会＞



＜大分銀行 野球教室＞



＜大分銀行 ファミリーテニス大会＞



＜各地域のスポーツイベントでの
ボランティア活動＞



12. 地域の皆さまと共に (4) 地域行事への参画



＜中津祇園＞



＜杵築お城まつり＞



＜別府夏の宵まつり＞



＜日田祇園＞



＜府内戦紙＞



＜鶴崎踊り＞



＜大野川合戦まつり＞



＜臼杵祇園＞



＜津久見港まつり＞



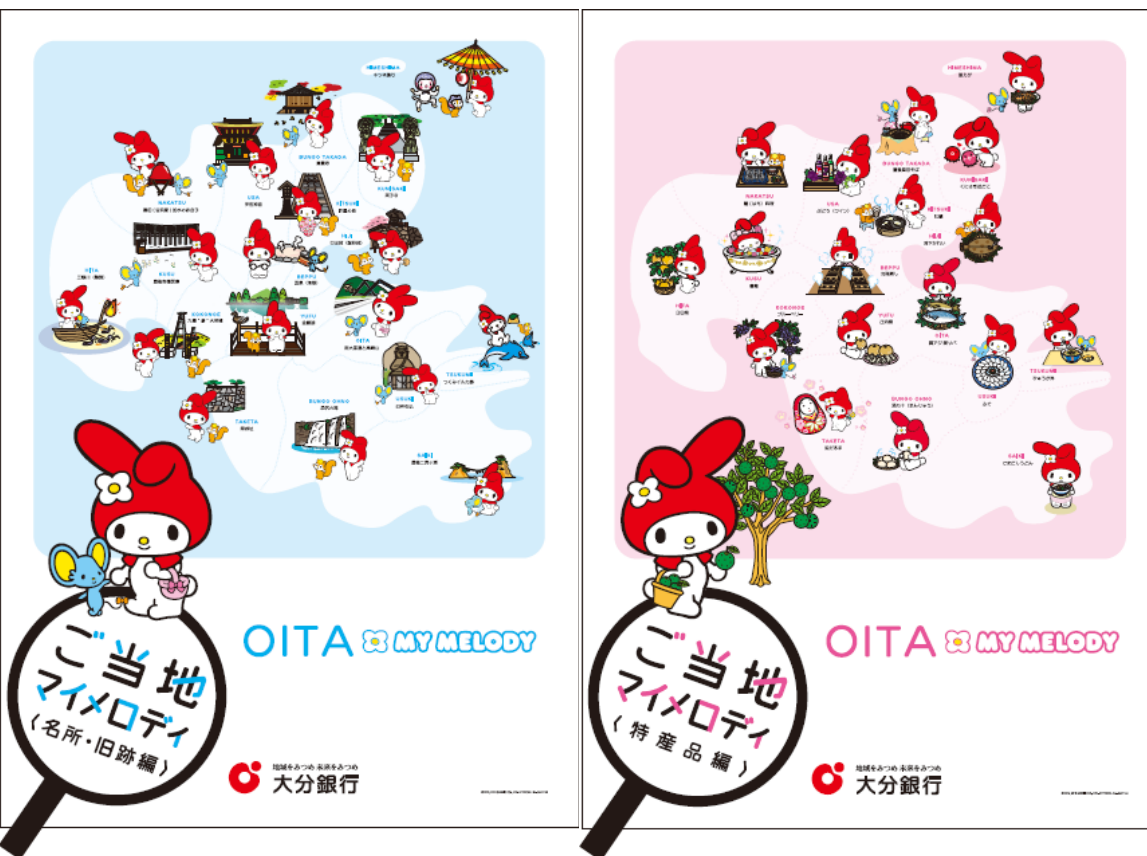
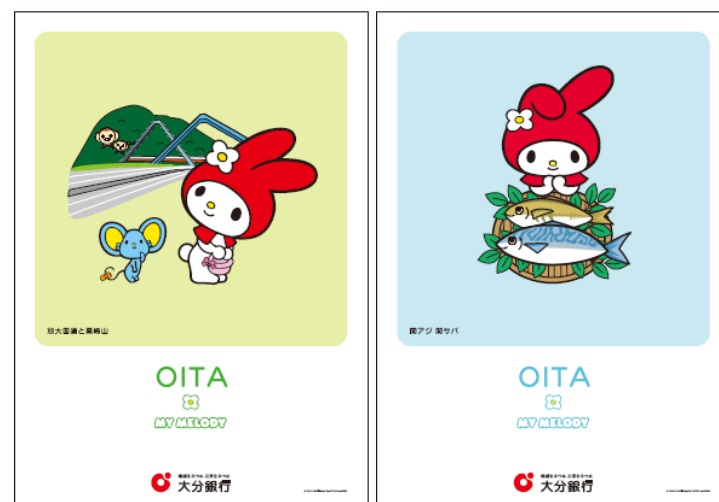
13. 大分ご当地マイメロディポスター①

大分銀行では、大分県の観光振興および地域活性化に貢献するため、大分銀行のイメージキャラクターであるマイメロディを活用して、日本全国に大分県内の「名所・旧跡」、「特産品」をPRする「大分ご当地マイメロディポスター」を作成し、店頭に掲示しています。

【大分県版】



【大分市版】



13. 大分ご当地マイメロディポスター②





本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、不確実性を内包しております。

将来の業績は、経営環境の変化等により、目標対比異なる可能性があることにご留意下さい。

《記載内容に関するお問い合わせ先》

株式会社 大分銀行 総合企画部

広報グループ 藤田・安藤（電話：097－538－7617）

ホームページアドレス ： <http://www.oitabank.co.jp/>



©1976, 2014 SANRIO CO., LTD. APPROVAL No. G550612

感動を、 シェアしたい。

夢を共に分かち合う。厳しさを共に実感する。長い時間を共に過ごし、考え抜き、とことん話し合う。

それも、ひとりの行員とお客さまという関係を超え、何としてもお役に立ちたいという、執念に近い情熱。

アイデアにあふれ、期待に応える提案。また、ひとりの人間としての信頼。そこで、はじめて、強い絆が生まれる。

やりきること。挑戦すること。諦めないこと。

そして、地域の皆さまやお客さまと、その発展・成功を共に喜び、「大分銀行で良かった」と感動して頂くこと。

それが私たちの、感動です。